

テーマ	会計理論と会計基準（Ⅱ）							
学籍番号							氏 名	

1. 次の文章の空欄にあてはまる語句を答えなさい。

- ・ 会計基準を設定するアプローチには、（ ① ）的なアプローチと（ ② ）的なアプローチがある。（ ① ）的アプローチとは、会計の前提となる仮定や会計の目的を最初に規定し、これらの仮定や目的と最もうまく首尾一貫するように具体的な会計処理ルールを導き出してくる方法をいう。これに対し（ ② ）的アプローチは、まず最初に、実際に行われている会計処理の諸方法を観察し、その中からよりいっそう一般的または共通的なものを抽出することによって、会計基準を設定する方法である。
- ・ 会計理論や実務の基礎をなす最も基本的な概念や前提事項であり、会計の理論的な基礎構造を構成する命題は（ ③ ）とよばれる。（ ③ ）として、今日最も一般的に考えられているのは、（ ④ ）の公準、（ ⑤ ）の公準、貨幣的測定公準の 3 つである。
- ・ （ ⑤ ）の公準は、継続する企業活動を 1 年ずつに区切って会計の計算を実行可能にするという形式的な意味だけではなく、その名称の通り、企業が通常倒産しないものと仮定するという実質的な意味を含んでいる。しかし、現実には多額の損失計上や債務超過への転落などにより、倒産の危機が迫っている企業も存在する。このため、継続企業の前提（または（ ⑥ ））に重要な疑念を抱かせる事象や状況が存在し、その解消や改善のための対応をしても重要な不確実性が認められると判断される場合には、その内容を財務諸表に注記することが求められている。

①	演繹	②	帰納	③	会計公準
④	企業実体	⑤	継続企業	⑥	ゴーイング・コンサーン

2. 正規の簿記の原則で求められる会計帳簿の特徴を 3 つ挙げなさい。

網羅性	検証可能性	秩序性
-----	-------	-----

3. 一般原則の真実性の原則における真実とは、どのようなものか説明しなさい。

真実性の原則でいうところの真実とは、相対的真実を意味する。今日の会計では、多くの事項について主観的な見積が含まれており、一つの取引につき、複数の会計処理方法が認められている場合がある。しかし、それらの会計が一般に公正妥当と認められる会計原則に従って行われるとき、その結果は真実なものとなされる。

4. 資本取引と損益取引について説明しなさい。

資本取引とは、出資者による追加出資や資本の引出しなど、企業の純資産を直接的に変化させることを目的として行われる取引という。損益取引とは、企業が利益の獲得を目指して行う取引であり、結果として企業の純資産が間接的に増加する取引をいう。